

【 杵 築 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

□市の平均正答率は64%だった。（県：67% 全国：63.8%）ほぼ、全国と同等の結果だった。

- ①■「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、同音異義語に注意して、漢字を文中で正しく使うことに課題がある。（関心 市：17.8% 県：36.8% 全国：35.6%）
- ②■「書くこと」の領域では、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」ことに課題がある。（市：32.2% 県：30.6% 全国：28.8%）
- ③□「読むこと」の領域では、「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」ことに関しては定着が見られる。（市：92.2% 県：91.7% 全国：88.5%）
- ④□14問中13問で、無解答率が県や全国より低かった。自分なりの考えを持って書けている児童が多かった。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- ①文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるように指導することが重要である。国語辞典や漢字辞典を使って意味を調べたり同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れて指導していくことが必要である。
- ②調べたことを報告する文章を書く際は、誰に何を報告するのかといった目的を明確にした上で、どのような理由や事例を挙げて自分の考えをまとめるのかを考えて書くように指導することが大切である。教材文等を用いた学習の中で、事実と感想・意見などの違いを確かめさせたり、「事実を客観的に書く」「文末表現に注意して書く」など、事実と考えとを区別して書かせたりする指導を行う。また、調べて分かった事実から、自分の考えを支えるものとしてふさわしいものを理由や事例として取り上げて書くように指導する。
- ③国語科での言語活動において、書く活動を取り入れ自分の考えを表現させる学習を積み重ねてきたことが成果につながっている。目的に応じて、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかを考えさせることが大切と言える。
- ④これまで、児童が最後まで目的を見失わずに言語活動を遂行できるような授業づくりを心がけてきた。今後も、単元全体を見通した子どもの意欲につながる「めあて」や学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」を位置付けた授業を重ねていきたい。

【 杵 築 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

- ① ■ 「図形」の領域で「台形について理解すること」に若干の課題がある。
- ② ■ 「図形」の領域で「図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成すること」に課題がある。
- ③ ■ 「量と測定」の領域で、「図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること」に課題がある。
- ④ ■ 「数量関係」の領域で「棒グラフから何倍かを読みとること」に課題がある。
- ⑤ ■ 「数量関係」の領域で「資料の特徴や傾向を関連付けて判断したり、理由を記述したりすること」に課題がある。
- ⑥ ■ 「数と計算」の領域で「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること」に課題がある。
- ⑦ ■ 「数と計算」の領域で「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、与えられた式の計算に適用すること」に課題がある。
- ⑧ ■ 「数量関係」の領域で「目的に適した伴って変わる2つの数量を見いだすこと」に課題がある。
- ⑨ □ 「数量関係」の領域で「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること」は全国平均を上回っている。
- ⑩ □ 「数と計算」の領域で「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること」は全国平均を上回っている。
- ⑪ □ 「数と計算」の領域で「計算の仕方を解釈し、計算しやすい式にして計算すること」は全国平均を上回っている。
- ⑫ □ 「数と計算」の領域で「示された除法の意味を理解すること」は全国平均を上回っている。
- ⑬ □ 「数と計算」の領域で「複数の数量から必要な数量を選び、立式すること」は全国平均を上回っている。
- ⑭ □ 「量と測定」の領域で「示された場面の状況から、単位量あたりの大きさを基に所要時間の求め方と答えを記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断すること」は全国平均を上回っている。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- ① ◆図形の性質や構成要素についての実感的な理解が不十分であると考えられる。図形に関わる単元の際にくり返し基本的な平面図形について扱い、定着を図る。
- ② ◆図形の性質や構成要素に着目して、図形を構成する力が不足していると考えられる。具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにするための操作活動を取り入れる。
- ③ ◆図形の構成についての見方をはたらかせたり、数の意味や演算の意味などを、図形と関連付けて説明することができていないと考えられる。図を基に式に表したり、図と関連付けて式を解釈したりする活動を様々な場面で取り入れ、説明する場を設定する。
- ④ ◆グラフを正確に読み取ったり、それを活用することができていないと考えられる。目的に応じて差を求めたり、何倍かを求めたりすることで、資料の中の数量の大きさの関係を読み取することを目的とした指導をする。
- ⑤ ◆資料の特徴や傾向を読み取り判断することができていないと考えられる。目的に応じて、必要な資料を収集し、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断できない事柄について判断するためのグループでの話し合い活動などを仕組む。
- ⑥ ◆資料の内容を正確に読み取り、計算の正しい順序について十分理解していないと考えられる。具体的な場面と関連付けながら、正しい計算の順序について理解できるように指導する。
- ⑦ ◆計算の仕方を解釈して適用したり、発展的に考察したりすることができていないと考えられる。計算をする際には、その計算が確実にできるように練習させることと、必要に応じて、1つの数を他の数の和や差としてみて、計算することの良さに気づかせるような問題に出合わせることで、計算を能率的にするために工夫できるようにする。
- ⑧ ◆日常生活の問題の解決のために、場面から伴って変わる2つの数量を見だし、数学的に表現・処理して、判断することができていないと考える。数量などの情報を提示せずに、児童自らが場面から伴って変わる2つの数量を見出すことができるように、問題場面をイメージさせるための絵を用いたり、問題の提示の仕方を工夫したりして指導する。

【 杵 築 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

【解答形式から】

全10問（選択式6問・短答式1問・記述式3問）、市平均正答率74%。記述式の正答率が79.1%で全国（+2.6）や県（+0.8）に比べて高い。選択式もわずかではあるが高い。一方、短答式は全国が56.8%、県が55.1%であるのに対して、49.3%と7.5%も低くなっている。授業改善が進み、授業中に記述する場面が増えたことで、生徒は記述に抵抗が少なくなってきたが、一方、問題の文章と問題文から何をどう答えるのかの読み取りが厳密にできないため、広い幅で○になる記述式より、正答の幅が狭い短答式に弱くなっている傾向がうかがえる。

【領域から】

「書くこと」85.1%で県（+1.5）全国（+2.5）より高い。また、課題であった「読むこと」でも74.2%で県（+0.7）全国（+2.0）より高くなっている。一方、昨年度好結果だった「話す・聞く」が全国よりは高いが県平均には0.3%及ばなかったことから、やはり問題や生徒の状況に左右される不安定さが気になる。最も差が大きかったのは「伝国」の県-2.1・全国-3.5である。特に封筒の表書きを正しく書く問題は、本市は49.3%の正答率で県（-5.8）全国（-7.5）と比べても開きがある。誤答例から課題を見定める必要がある。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

今回、気になる問題として挙げられる②の文化祭の話し合いの問題では、選択肢2・3の誤答が多いことから、問題文の読み取りが弱いことと、選択肢の違いが読み取れていないことがわかる。また、話し合いの経験は積み重ねてきているが、一つ一つの発言の意味や役割を意識させる学習が必要である。

「伝国」領域についても、はがきや封筒の表書きは1年生の書写で学習しているが、今回の誤答は「正しい内容を楷書で書く」ことができていない。情報がどこにあるかはわかったようだが、文字の丁寧さや書き写しの正確さに問題があるようだ。手紙やはがきに関する経験も少ない。こういった日常生活につながる教材を扱っていく必要がある。また、文字の丁寧さ、正確さも日常的に指導していかなければならないと強く感じた。これについては、小学校との連携も必要になると考えられる。

【 杵 築 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

中学校：数学

全問題数16問（選択式5問・短答式7問・記述式4問）

◆平均正答率61%（県平均と同等、全国平均を1.2P上回る。）

- ・全国、県と比較して正答率が上回る。→6問
- ・全国と比較して正答率が上回る。→3問
- ・県と比較して正答率が上回る。→1問
- ・全国、県と比較して正答率が下回る。→6問

◆領域別では、「数と式」「関数」「資料の活用」の正答率で、県・全国平均を上回る。

◆観点別では、「数学的な技能」の正答率で、県・全国平均を上回る。

「数学的な見方や考え方」の正答率で、県平均と同等、全国平均を上回る。

◆問題形式別では、短答式67.4%、記述式48.4%で、県・全国平均を上回る。

選択式61.2%で、県平均と同等、全国平均を上回る。

◇無解答率が県・全国と比較して多い。8問で県・全国を上回る。

特に課題のある問題（領域：問題形式）〔全国平均と比較〕

市平均正答率が特に低い問題

- ・証明で用いられている三角形の合同条件を書く設問。（図形：短答式）〔-7.4P〕
- ・ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの証明として正しいものを選ぶ設問。（図形：選択式）〔-4.3P〕

2 具体的な改善方策

中学校：数学

○「数量や図形などについての知識・理解」に関する問題においては、数学用語や重要事項、公式の意味と理解を深められる指導、またはそれらを想起する場面を増やすような指導をする。

○7(1)証明で用いられている三角形の合同条件を書く設問 / 正答率：市68.4 県72.8 全国75.8
〔趣旨〕証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。

（改善方策）三角形の合同条件や直角三角形の合同条件以外の解答が、14.2%と正答の次に多かったことから、具体物の操作活動を取り入れる等、合同条件の理解を深められるように指導する。

○7(2)ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの証明として正しいものを選ぶ設問 / 正答率：市72.9 県77.6 全国77.2

〔趣旨〕花例の意味を理解している。

（改善方策）反例の意味について理解を深められるように授業の中で丁寧に指導する。

○9(2)連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの証明を完成する設問 / 無解答率：市20.4 県17.3 全国17.8

〔趣旨〕事柄が成り立つ理由を説明することができる。

8(2)「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由をヒストグラムの特徴を基に説明する設問 / 無解答率：市24.0 県20.1 全国21.3

〔趣旨〕資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

（改善方策）

- ・説明内容(事実・方法・理由)を区別できるようにし、説明の基本形を活用できるように指導する。
- ・授業で、生徒が説明したり教え合ったりする場面を設定し、論理的な説明の組み立てに慣れさせる。

【 杵 築 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

1 調査結果の分析

中学校：英語

中学校 英語		平均正答率（％）		
		杵築市	差	
			県	全国
全 体		56	1	0
領域別	聞くこと	67.0	0.6	-0.9
	読むこと	56.2	0.9	-0.4
	書くこと	45.1	-0.3	-0.7
観点別	外国語表現の能力	0.0	-1.7	-1.8
	外国語理解の能力	44.0	0.9	-0.7
	言語や文化についての知識・理解	64.5	0.2	-0.2
形式別	選択式	71.8	0.8	0.4
	短答式	44.6	-0.3	-0.6
	記述式	3.6	-1.5	-3.2

全問題数／21問（選択式13問・短答式5問・記述式3問）

○平均正答率56（選択式71.8・短答式44.6・記述式3.6）

- ・全国と比較して正答率が上回る→9問
- ・県と比較して正答率が上回る→12問
- ・問題形式別の選択式以外すべてで、全国正答率を下回っている。
- ・問題形式別の記述式で、-3.2と全国との差が特に大きい。

○無解答率

- ・記述式の問題【4】53.8（全国との差11.5）【8】34.7（全国との差6.8）で特に高かった。

○特に課題のある問題

- ・【4】来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く問題
(-5.8)
- ・【9(3)】与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く（3単現の肯定文）問題
(-7.1)
- ・【10】学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く問題（正答率0.0）

2 具体的な改善方策

中学校：英語

○【4】の問題について

(目標) 聞くだけにとどめず、把握した内容について適切に応じることができるようにする。

(具体的方策)

- ・「聞くこと」を目的とする活動では、ただ聞いて理解するだけの活動にしない。そのために、場面などの設定を工夫しながら、話し手がどのような人で、何を求めているか、この場面においてどのような応答がふさわしいのか考えさせる活動を仕組んでいく。
- ・内容を踏まえて自分の考えや意見を表現させる活動を仕組んでいく。
- ・日頃から生徒と英語でのやり取りをする中で、実際に聞いて応じる活動を積み重ね、体験的に身に付けさせていく。

○【9（3）】の問題について

(目標) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができるようにする。

(具体的方策)

- ・コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、様々な個別の知識を活用させて文を書かせることを授業の中に位置付けるようにする。
- ・生徒の誤りについて生徒自身に考えさせるなどの指導を繰り返すことを通して、学習内容の理解を深めさせていく。
- ・憧れの人物や友達紹介など、3人称を扱った言語材料を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりして様々な場面で繰り返し使用する活動を仕組んでいく。

○【10】の問題について

(目標) テーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるようにする。

(具体的方策)

- ・自分の考えをもつことができるようにすることや、伝えたいことを読み手に正しく伝えるために、語や文法事項等を正しく理解して書き表すことができるように指導していく。
- ・「ペアでやり取りして話したことを書く」や「読んだことについて感想や意見を書く」など、複数の領域を統合させることで書く内容を増やしたりまとめたりする活動を仕組んでいく。
- ・生徒自身が読み直して誤りに気付き、修正を加えながら正確さを高める活動を仕組んでいく。

【 杵 築 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

<基本的な生活習慣等>

- 「朝食を毎日食べているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は95.6%であり、県・全国よりも少し高い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は82.5%であり、県・全国よりも高い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は90.4%であり、県・全国より低い。
- 「家の人と学校での出来事について話をしているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は71.2%と県・全国を比べるととても低い。

<挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等>

- 「自分には、よいところがあるか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、80.4%であり、県・全国と比べほぼ同じか少し低い。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、86.5%で県・全国と比べてとてもほぼ同じか少し低い。
- 「将来の夢や目標を持っているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、79.9%であり、県・全国と比べてとても低い。
- 「学校のきまりを守っているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、92.6%で県・全国とほぼ同じ。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、95.6%であり、どちらも県・全国と比べて低い。

<学習習慣等>

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、70.8%であり、県・全国と比べて低い。
- 月曜日から金曜日に「1日に1時間以上勉強する」と回答した割合が、69.4%であり、全国よりも高いが、県と比べると少し低い。
- 月曜日から金曜日に「1日に30分以上読書をする」と回答した割合が、41.0%であり、県と比べると低い、全国と比べると高い。「全くしない」と回答した割合は、14.4%であり、県・全国と比べて低い。
- 「新聞を読んでいるか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、15.3%であり、県よりも少し高いが、全国と比べると低い。

<地域や社会に関わる活動の状況等>

- 「今住んでいる地域の行事に参加しているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は68.6%であり、県より低い、全国と比べると少し高い。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は47.1%であり、県・全国と比べると低い。
- 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は59.8%であり、県・全国と比べて低い。
- 「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は72.9%であり、県・全国と比べて低い。

<ICT を活用した学習状況>

- 「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか」という質問に対して「週1回以上」と回答した割合は、31.1%であり、県・全国よりも高い。
- 「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思うか」という質問に対して、肯定的な回答の割合は、89.1%であり、県・全国と比べてほぼ同じか高い。

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」という質問に対して肯定的な回答の割合は、70.8%であり、県・全国と比べて低い。
- 「5年生まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」という質問に対して肯定的な回答の割合は、72.9%であり、県・全国と比べて低い。

<学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）>

- 「国語の勉強は好きか」との質問に肯定的な回答した割合は、65.0%であり、県・全国と比べて少し低い。「国語の勉強は大切である」と肯定的な回答した割合は93.5%、「国語の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答した割合は88.6%で、どちらも児童が県・全国と比べるとほぼ同じか高い。
- 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしているか」という質問に肯定的に回答した割合が79.9%で、県・全国よりも高い。
- 「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫しているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合が63.8%で、県・全国と比べると低い。

<学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数）>

- 「算数の勉強は好きか」との質問に肯定的な回答した割合は、65.5%であり、県・全国より低い。「算数の勉強は大切である」と肯定的な回答した割合は92.1%で県・全国と比べて低い。「算数の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答した割合は83.0%で県・全国とほぼ同じ。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか」の質問に対して、肯定的な回答をした割合が82.5%で県・全国と比べて低い。
- 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合が、86.5%で、県・全国と比べて低い。

生徒質問紙

<基本的な生活習慣等>

- 「朝食を毎日食べているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は92.0%であり、県・全国と比べて低い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は76.8%であり、県とほぼ同じであるが、全国と比べると低い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は92.4%であり、県・全国と比べて少し低い。
- 「家の人と学校での出来事について話をしているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は71.9%であり、県・全国と比べてとても低い。

<挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等>

- 「自分には、よいところがある」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、68.8%であり、県・全国と比べてとても低い。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、84.9%であり、県・全国と比べて高い。
- 「将来の夢や目標を持っているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、65.2%であり、県・全国と比べてとても低い。
- 「学校の規則を守っているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、97.3%であり、県・全国と比べて少し高い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、94.7%であり、どちらも県・全国と比べて少し低い。

<学習習慣等>

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、45.9%であり、県・全国と比べて低い。
- 月曜日から金曜日に「1日に2時間以上勉強する」と回答した割合が、33.1%であり、県・全国と比べてとても低い。
- 月曜日から金曜日に「1日に30分以上読書をする」と回答した割合が、30.4%であり、県・全国より高い。「全くしない」と回答した割合は、39.3%であり、県よりも低いが、全国と比べると高い。
- 「新聞を読んでいるか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、11.6%であり、県・全国と比べてほぼ同じか少し低い。

<地域や社会に関わる活動の状況等>

- 「今住んでいる地域の行事に参加しているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は42.4%であり、県・全国と比べて低い。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は36.1%であり、県・全国と比べると低い。
- 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は55.3%であり、県・全国と比べて低い。
- 「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うか」の質

問に対して肯定的な回答をした割合は54.5%であり、県・全国と比べて低い。

<ICT を活用した学習状況>

- 「1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか」という質問に対して「週1回以上」と回答した割合は、33.5%であり、県・全国よりも高い。
- 「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思うか」という質問に対して、肯定的な回答の割合は、85.3%であり、県・全国と比べて高い。

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

- 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」の質問に対して肯定的に回答した割合は、64.3%で県・全国と比べて低い。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うか」の質問に対して肯定的に回答した割合は、68.4%であり、県・全国と比べて低い。

<学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）>

- 「国語の勉強は好きか」との質問に肯定的に回答した割合は、50.4%、「国語の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した割合は、74.6%、「国語の勉強は大切である」と肯定的に回答した割合は、84.9%であり、県・全国と比べるとどれも低い。
- 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしているか」の質問に対して肯定的に回答している割合は、76.8%であり、県・全国と比べるとほぼ同じか少し低い。
- 「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫しているか」の質問に対して肯定的に回答している割合は、54.9%であり、県・全国と比べるととても低い。

<学習に対する興味・関心や授業の理解度等（数学）>

- 「数学の勉強は好きか」との質問に肯定的に回答した割合は、50.5%、「数学の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した割合は、68.3%、「数学の勉強は大切である」と肯定的に回答した割合は、80.3%でありどれも県・全国と比べると低い。
- 「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」の質問に対して肯定的に回答している割合は、71.9%であり、県・全国と比べるととても低い。

<学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）>

- 「英語の勉強は好きか」との質問に肯定的な回答をした割合は、54.9%、「英語の勉強は大切だと思うか」の質問に肯定的な回答をした割合は、79.4%、「英語の授業はよく分かる」と肯定的に回答した割合は、59.4%といずれも県・全国より低い。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたか」との質問に肯定的な回答をした割合は、67.0%であり、県・全国と比べて高い。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたか」の質問に肯定的な回答をした割合は、81.7%であり、県・全国と比べてとても高い。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたか」の質問に肯定的な回答をした割合は、82.6%であり、県・全国と比べて高い。

2 杵築市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

(小学校)

- 児童の学習意欲の向上を図る。
 - ・学びを実感できる授業づくり。
 - ・基礎・基本の定着。
 - ・自分の考えを深めたり、広げたりする話し合い活動の推進。
 - ・学習で得た知識や技能を活用する、教科横断的な発想と実践。
 - ・ICTを活用した授業づくりの推進。

- 読書への興味・関心の向上を図る。
 - ・授業における学校図書館の活用。
 - ・並行読書等の推進のための書籍の充実。

- 地域や社会への興味・関心を深める。
 - ・地域教材や地域人材の活用の推進。

- 安心できる学校生活の構築と自尊意識の向上を図る。
 - ・校内での相談体制の再確認と、SC・SSW等の活用推進。
 - ・組織的に取組を進めていく校内体制づくりの推進。

(中学校)

- 生徒の学習意欲の向上を図る。
 - ・学びを実感できる授業づくり。
 - ・基礎・基本の定着。
 - ・自分の考えを深めたり、広げたりする話し合い活動の推進。
 - ・学習で得た知識や技能を活用する、教科横断的な発想と実践。
 - ・ICTを活用した授業づくりの推進。

- 読書への興味・関心の向上を図る。
 - ・授業における学校図書館の活用。
 - ・生徒会活動と連携した読書の推進。

- 地域や社会への興味・関心を深める。
 - ・地域教材や地域人材の活用の推進。

- 安心できる学校生活の構築と自尊意識の向上を図る。
 - ・校内での相談体制の再確認と、SC・SSW等の活用推進。
 - ・組織的に取組を進めていく校内体制づくりの推進。
 - ・評価の目的を再確認し、指導事項にそった評価を生徒に返す取組の推進。

【 杵 築 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

※数値は「そのとおりだと思う・どちらかといえば、そう思う」等の肯定的回答の集計（%）（ ）は全国の数値

<挑戦心、達成感、規範意識・自己有用感等>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	90.0 (87.7)
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	100 (96.6)

<カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	100 (95.1)
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100 (95.4)

<教職員の資質能力の向上>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	100 (99.3)
教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	100 (97.0)
学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	100 (97.1)

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	100 (85.5)
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	100 (89.3)

<小学校教育と中学校教育の連携>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	90.0 (60.6)

<家庭や地域との連携等>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	100 (97.8)

<家庭学習>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(教科共通)	90.0 (92.2)
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(教科共通)	100 (95.5)

中学校：学校質問紙

※数値は「そのとおりだと思う・どちらかといえば、そう思う」等の肯定的回答の集計(%) ()は全国の数値

<挑戦心、達成感、規範意識・自己有用感等>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	100 (94.1)
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	100 (95.2)

<カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	100 (91. 3)
生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100 (93. 5)

<教職員の資質能力の向上>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	100 (98. 6)
教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	100 (94. 9)
学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	100 (95. 7)

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	100 (82. 6)
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	100 (88. 0)

<小学校教育と中学校教育の連携>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	66. 7 (60. 0)

<家庭や地域との連携等>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	100 (90. 4)

<家庭学習>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（教科共通）	66.7 (87.0)
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（教科共通）	100 (92.3)

2 杵築市の学校質問紙調査の結果をふまえて

(小学校・中学校共通)

○市内小中学校においては、概ね落ち着いた生活を送ることができている。また、挑戦心や達成感を味わうことができる取組も図られている。引き続き、児童生徒が安心して学習や生活を行うことができる組織的な校内体制の確立が必要である。

○「カリキュラム・マネジメント」・「PDCA サイクル」も確立されてきているとともに、教職員の資質能力の向上を図る取組が組織的に継続して行われている。

○主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善は進んできている。

○小学校と中学校の連携については、今後、近隣の小中学校で、各種学力調査等の成果と課題の共有を行うとともに、学校公開日等を活用しながら連携を深めていく取組を進める必要がある。

○家庭学習については、取組が進められているものの、教職員の共通理解については不十分な面も見られる。今後、家庭学習についての指導が効果的に進められるよう、学年段階に応じた家庭学習の課題等について、共通理解をより一層図っていく。

◇引き続きめあて・ねらいを明確にした授業づくり、評価規準の作成と評価の在り方、C評価（努力を要する状況）の児童生徒へのフォローは必須の取り組みとして継続していく。